

屋奉松明の鴨神社 鴨神社 氏子総代会

大安町丹生川上に鎮座する鴨神社では、長さ4.5メートルもの「松明」の炎が鳥居を焦がす迫力満点の神事が行われます。天下の奇祭とも称される「屋奉松明」神事で、いなべ市の無形民俗文化財に指定されています。現在は3年に1度、10月に行われますが、昨年は中止となりました。「鴨神社 氏子総代会」10名と自治会長4名で構成する執行部は、本年の斎行に向けて着々と準備を進めています。



梅山 兵治さん(左側)と
樋口 平和さん

お問い合わせ

「鴨神社」
いなべ市大安町丹生川上429
TEL 0594-78-0461
TEL 090-3467-0806
(樋口 平和さん)

今回は鴨神社にお邪魔して、宮司の梅山 兵治さんと「鴨神社 氏子総代会」氏子総代責任役員の樋口 平和さんにお話を伺いました。お二人からは、昨年やむなく中止となった「屋奉松明」神事を、今年こそはという想いが伝わりました。

まず、鴨神社と神事の歴史・由来について教えてください。

梅山：鴨神社は、天平19(747)年に書かれた「天安寺伽藍縁起並流記資財帳」に記述があるため、この時には当地に鎮座していたことがわかります。神事は、神社創建時に、京都上賀茂神社から御神体と御神宝(神刀、弓、矢)を迎えた際に、松明に火をたいた様子を表したものだ

と伝わります。その後、400年前ごろに現在の形式になりました。

——とても由緒があるんですね。ところで松明といえば、木や竹の棒の先に布を巻き付けたものが一般的ですが…

樋口：「屋奉松明」の松明は2種類あり、どちらも主に使うのは、菜種油用に栽培したナタネを収穫後に乾燥させたナタネ殻です。このナタネ殻をフジ蔓でまとめた松明を「屋奉」と呼びます。長さは2メートルほどです。そして、ナタネ殻を常緑樹の枝葉で包んだ後、簾状に編んだ42本の竹で巻き付け、フジ蔓で締めたものを「松明」と呼びます。長さ4.5メートル、重さ900キログラムといわれています。なお、これまでは野火・夜

火とも書きましたが、江戸時代後期に書かれた「伊勢輯雜記」にも「屋奉松明」の記述があり、氏子の各屋(家)から奉納するのだから「屋奉」としました。

——材料作り方も独特ですね。先ほど焦げ跡が残る鳥居を拝見しましたが、神事当日は、あの鳥居が炎に包まれるわけですね。樋口：そうです。鴨神社の鳥居は焦げ

ていないといけません。当日は、朝から例祭が斎行され、「浦安の舞」も行われます。午後6時に仕丁と呼ばれる人が、御神宝を保管する家へ赴き「神宝渡御の請願」をします。つまり、例祭に必要な宝物を貸してくださいとお願いののです。仕丁が出発すると、境内では「屋奉」に火を点けて氏子たちが振り回

す「屋奉振り」が行われます。これには露払い、邪気払いなどの意味があります。一方、仕丁は7回も赴きますが、行くたびに断られます。8回目には宮司、氏子総代と区長などが全員で出かけるため、ようやく神宝を保管する家からも出発して途中で合流するので、これを「七度半の使い」と称します。

梅山：御神宝が到着した後、寝かせた状態の「松明」に点火します。「松明」は2つあって、境内中央の土俵上で押ししたり、持ち上げたりしますが、これを蒸しあう」といいます。1つの「松明」を40人で立てたり倒したりして鳥居の下まで運



焦げ跡が残る鴨神社の鳥居



いなべ総合学園美術部・書道部の生徒たちが描いた絵や文字に彩られた提灯館収納庫



「屋奉振り」の様子 ※



「神宝渡御の行列」 ※



夜空をも焦がす勢いの「松明」の炎 ※

び、炎が鳥居を焦がすほどになったら、いったん土俵に戻し、再び鳥居の下へと動く動作を3回繰り返すと、「松明」の大きさは半分程度になります。それでも炎の勢いはすさまじいですよ。樋口：2つの「松明」は、実は雌雄を表現しています。2つを重ねあわせて終了しますが、最後に25歳の厄年の青年4人により「鳥追い」「飛角力」が行われます。

——お話を聞いていて、ただで熱気が伝わりますが、準備が大変そうですね。

樋口：「松明」は例祭の1週間ほど前に、雌雄それぞれ10数人で組み立てます。これはこれで重労働ですが、大変なのは

材料調達です。今はナタネを栽培する農家はなく、自治会が「屋奉松明」のために輪番で栽培しています。竹や常緑樹の枝葉、フジ蔓などの確保と刈り取り作業なども大変です。実は、以前は毎年行っていました。3年に1度になったのは、材料調達の問題も大きく関係しているのです。

——ありがとうございます。「屋奉松明」神事が、氏子総代会はじめ関係者の皆さんの尽力によって続けられていることが理解できました。なお、神事が本年行われる場合は、10月16日(土)の予定です。

インタビュアー：中村真由美

※印の写真は取材先から提供していただきました